

博報賞に2団体

野原小と
「こここ会」 国際交流など評価

文化や言葉の教育を通じて、子どもたちの人間性育成に貢献している団体や学校を表彰する第39回博報賞（財団法人博報児童教育振興会主催）に、「NPO「こうべ子どもこここ会」（神戸市東灘区）と、宍粟市立野原小学校（宍粟市波賀町）が選ばれた。11月14日に東京都内で表彰される。

「こうべ子どもこここ会」は、日本語教師や高校教師が中心となつて02年、同区の多文化共生センターひょうごを拠点に設立。言葉、学力、不就業などで問題を抱える外国人労働者の子どもに週3回、19人のボランティアが1対1で日本語を教えたり、進学のための勉強を教えたりしている。母国語教育もしており、定期的に保護者会や家庭訪問をして家庭との連携を深め、外国人が暮らしやすい地域づくりにも取り組んでいる。

野原小学校は、保護者や地域住民と「NJA」（野原日豪親善交流会の英語略）を結

成し、81年から豪州の小学校と交流している。5、6年生になると全員で豪州を訪れて4泊のホームステイを体験。豪州の児童や保護者が来日した際には、地域を挙げてホームステイで迎え、盆踊りを開いている。NJA結成時から全学年で英語学習を採り入

れ、現在も全児童36人が熱心に英語を学び、外国の人々と交流する喜びを感じている。

受賞について、こうべ子どもこここ会の長嶋昭親運営委員長は「小さいグループなので受賞はとても励みになる。十分な教育を受ける権利が保障されるように、今後も一歩ずつ取り組んでいきたい」。野原小の新庄康史校長は「大変光栄でありがたいこと。素晴らしい地域力と先人の方の努力のたまものです」と話した。